

●十五年戦争極秘資料集 補巻①～59

① 毒ガス戦教育関係資料 内藤裕史 編・解説 定価 19,800円	② 毒ガス戦関係資料Ⅱ 吉見義明・松野誠也 編・解説 定価 19,800円	③ 思想彙報Ⅱ 荻野富士夫 編・解説 定価 16,500円	④ 戦時下国民栄養の現況調査報告書〔昭和18年〕 金子 俊 編・解説 定価 16,500円	⑤ 第一次上海事変における第九師団軍医部「陣中日誌」 野田勝久 編・解説 定価 19,800円	⑥ 廬溝橋事件期支那駐屯憲兵隊 重松関係文書 北 博昭 編・解説 定価 9,900円	⑦ 韓国併合始末 関係資料 海野福寿 編・解説 定価 10,450円	⑧ 軍隊警察の対立と憲兵司令部 重松関係文書Ⅱ 北 博昭 編・解説 定価 9,900円	⑨ 南方地域現地自活教本 野田勝久 編・解説 定価 9,350円	⑩ 戦後の皇軍 重松憲兵少佐綴 北 博昭 編・解説 定価 9,900円	⑪ 二反長音蔵・アヘン関係資料 倉橋正直 編・解説 定価 9,350円	⑫ 東亞諸民族の死亡に関する衛生統計的調査 金子 俊 編・解説 定価 13,200円	⑬ 関東軍参謀部作成 総動員関係調査資料 永島勝介・安富 歩 編・解説 定価 9,350円	⑭ 軍律法廷審判例集 北 博昭 編・解説 定価 9,350円	⑮ 南方方面海軍資料 野田勝久 編・解説 定価 10,450円	⑯ 陸軍に於ける花柳病 早川紀代 編・解説 定価 10,450円	⑰ 毒ガス戦教育関係資料Ⅱ 内藤裕史 編・解説 定価 9,350円	⑱ 十五年戦争末期国内憲兵分遣隊報告 北 博昭 編・解説 定価 9,900円	⑲ 日本占領下上海における日中要人インタビューの記録 高網博文 編・解説 定価 10,450円	⑳ 満洲国軍ノ現況 松野誠也 編・解説 定価 19,800円	㉑ ベンゾイリン不正輸入事件関係資料 倉橋正直 編・解説 定価 9,350円	㉒ 終戦後の法令制定・改正・廃止経過一覧 茶園義男 編・解説 定価 10,780円	㉓ 陸軍軍医学校防疫研究報告 全8冊・別冊1 常石敬一 解説 揃定価 177,100円	㉔ 山東出兵時における「第三師団特種研究記事」 福島幸宏 編・解説 定価 30,800円	㉕ 宣撫月報 全8冊・別冊1 山本武利 解説 揃定価 159,500円	㉖ 五・一五事件期憲兵司令部関係文書 北 博昭 編・解説 定価 13,200円	㉗ 関東軍化学部・毒ガス戦教育演習関係資料 松村高夫・松野誠也 編・解説 定価 22,000円	㉘ 資料集成 戦争と障害者(第1期) 全7冊 清水 寛 編 揃定価 154,000円	㉙ 陸軍省「調査彙報」 全5冊・別冊1 松野誠也 編・解説 揃定価 83,600円	㉚ 外邦測量沿革史 草稿 全4冊・別冊1 小林 茂 解説 揃定価 124,300円	㉛ 大同保育隊報告 藤野 豊 編・解説 定価 16,500円	㉜ 戦場心理の研究 全4冊 岡田靖雄 解説 揃定価 35,200円	㉝ 満洲事変日誌記録 全3冊 芳井研一 解説 揃定価 39,600円	㉞ 「合作社事件」関係資料 全2冊 「合作社事件」研究会編・解説 揃定価 44,000円	㉟ 情報 全9冊・別冊1 三好 章 解説 揃定価 149,600円	㊱ 南満洲鉄道株式会社 帝国議会説明資料・別冊 芳井研一 解説 定価 13,200円	㊲ 陸軍経理学校五十年史 全3冊 中野 良 解説 揃定価 39,600円	㊳ 「研究蒐録 地図」 全3冊 小林茂・渡辺理絵 解説 揃定価 59,400円	㊴ 東京時事資料月報 芳井研一 解説 定価 13,200円	㊵ 特調班月報・通讯 全4冊 三好 章 解説 揃定価 70,400円	㊶ 大阪府特高警察関係資料—昭和二〇年 塚崎昌之 解説 定価 22,000円	㊷ 憲兵隊が記す日中開戦時の国内状況 北 博昭 編・解説 定価 20,900円	㊸ 内外地憲兵隊にみる検閲錬成 北 博昭 編・解説 定価 22,000円	㊹ 戦時下政治行政活動史料 1941-1945 全3冊 古川隆久 編・解説 揃定価 62,700円	㊺ 海軍軍法会議判例類集 北 博昭 編・解説 定価 20,900円	㊻ 陸軍軍法会議判例類集 全2冊 北 博昭 編・解説 揃定価 41,800円	㊼ 総力戦研究所関係資料集 全9冊・別冊1 粟屋憲太郎・中村 陵 編・解説 揃定価 168,300円	㊽ 台湾総督府第六十回帝国議会説明資料 全5冊 河原 功 解説 揃定価 104,500円	㊾ 迫撃第五大隊毒ガス戦関係資料 松野 誠也 編・解説 定価 22,000円	㊿ 台湾議会設置関係書類 若林 正文 解説 定価 27,500円	① 海軍兵学校第三七期クラス会誌「海軍生活の思い出」全1冊 沖田 恭祐 解説 定価 20,900円	② 東京大学薬学図書館薬史学文庫所蔵「北支関係・満洲関係」綴 全3冊 折原 裕 解説 定価 59,400円	③ 陸軍軍医学校防疫研究報告 第9冊・補遺 全1冊・別冊1 常石敬一 解説 揃定価 22,000円	④ 日本人捕虜関係資料 内海愛子・宇田川幸大 編・解説 定価 22,000円	⑤ 陸軍登戸研究所関係資料 松野誠也 編・解説 定価 30,800円	⑥ 尖閣群島測候所建設調査報告 三木 健 編・解説 定価 16,500円	⑦ 満洲武装移民関係資料 全3冊 森 武磨 編・解説 揃定価 83,600円	⑧ 戦時農業団体・配給統制資料 齋藤邦明 編・解説 定価 30,800円	⑨ 日本軍奉天俘虜収容所関係資料 宇田川幸大 編・解説 定価 30,800円
---	---	-------------------------------------	---	---	--	--	---	--	---	---	--	---	--------------------------------------	---------------------------------------	--	---	--	---	--------------------------------------	--	---	---	--	---	---	---	--	---	---	--------------------------------------	---	--	--	---	--	--	---	-------------------------------------	--	--	---	--	---	---	--	--	--	--	--	---	---	---	--	--	--	--	--	--

以後新資料発見次第、逐次刊行予定

一覧の表示価格は税10%込

不二出版

〒112-0005 東京都文京区水道2-10-10
TEL 03-5981-6704
FAX 03-5981-6705
振替 00160-2-94084

俘虜収容所の過酷な実態を示す貴重資料！

「防疫」と「人体実験」、そのあいまいな境界を問いかける！

編・解説 宇田川幸大 (中央大学商学部教授)

十五年戦争極秘資料集 補巻59

日本軍奉天俘虜収容所 関係資料

連合国捕虜を収監するために一九四三年一月に開設され、敗戦時点では一七〇九人が収容されていた奉天俘虜収容所。捕虜たちの間で感染症が蔓延するなかで、七三一部隊が「防疫」のために派遣された際の記録「奉天俘虜収容所臨時防疫班作業報告」を中心とした、奉天俘虜収容所に関する資料、収監された捕虜の東京裁判での証言／弁護側資料を収録。俘虜収容所での過酷な境遇が浮かび上がるとともに、捕虜に対する「防疫」が、一体誰のためのものであったのか。「科学」と「暴力」のあいまいな境界を問いかける！

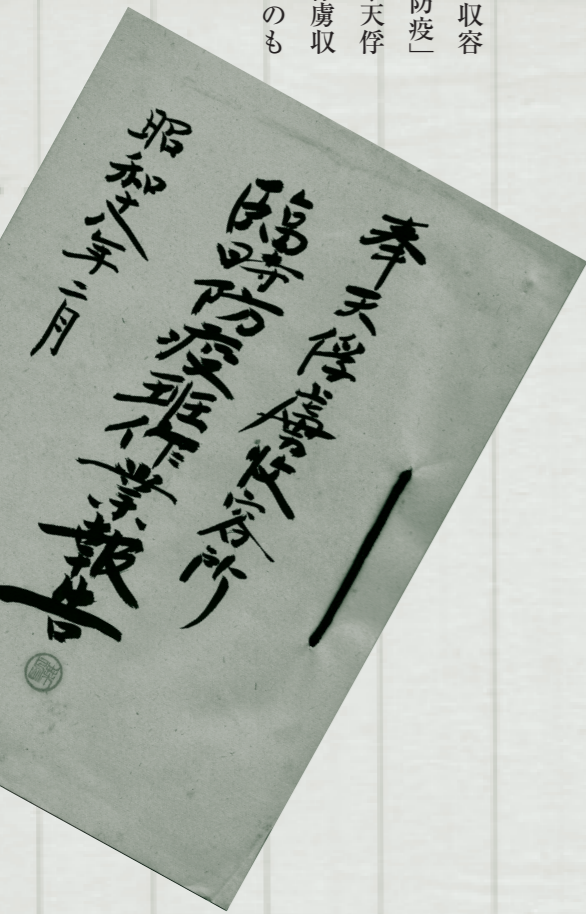
●体裁—B5判・上製・466頁
●定価—30,800円 (本体28,000円+税10%)

ISBN978-4-8350-6887-9

不二出版



極寒の奉天俘虜収容所で、捕虜たちはどのような扱いを受けていたのか？
(写真は「写真週報」1942年12月16日号掲載の、東京で撮影されたアメリカ兵捕虜の様子)



資料1 「奉天俘虜収容所臨時防疫班作業報告」(1943年2月)

◎刊行にあたって

宇田川 幸大

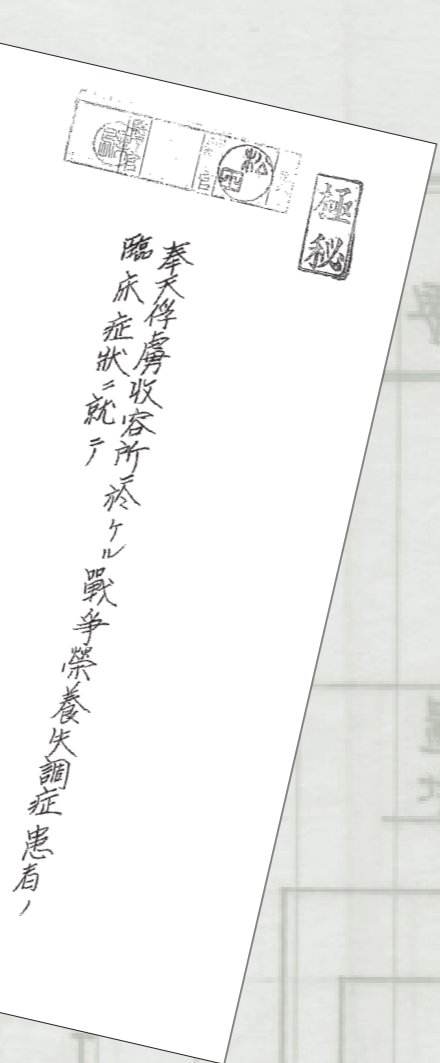
本書は、新たに発見された奉天俘虜収容所に関する資料を、国内に散在していた関係資料と併せて復刻・刊行するものである。二〇二五年一月、「古書店で発見された資料の提供を受けた」との連絡を不二出版より受け、編者は直ちに資料の確認と史料批判の作業を進めた。この結果、当該資料は、奉天俘虜収容所に所属していた軍医が所持していた資料である可能性が高いことが分かった。すでに公表されている資料といくつか重複はあ

奉天俘虜収容所は、一九四三年一月一〇日に編成が完了し、開設された。日本の敗戦時点でアメリカ、イギリス、オランダ出身の者など、併せて一七〇九人の捕虜が収容されていた。奉天俘虜収容所は、七三二部隊が「防疫」作業のために派遣されていたこともあって、研究者や市民の関心を集めてきた。しかし関係資料が不足し、収容所の実態についてはいまだに不明な点が多い。本書の刊行は、極めて意義深いものであるといえよう。

本書では二部構成を採用し、奉天俘虜収容所の実態や「戦後」に迫る資料を収録した。第一部「奉天俘虜収容所の諸相」では、収容所内の実態を示す軍医作成の資料などを採録した。ここには、①七三二部隊が収容所で行った防疫作業の計画や編成などについて、詳しく記した資料、②軍医が捕虜に行なった検査に関する資料、③検査の結果に対する軍医の分析結果をまとめた資料、④軍医の名簿など、多くの新出資料を収録した。なお軍医の名簿には、出身校や所属部隊なども記載されており、「大学（科学）—医学—軍」というネットワークの一端が浮かび上がる。さらに第一部の最後には、防衛省防衛研究所戦史研究センターに所蔵されていた、『昭和二十年 報告綴』と『昭和二十年 部隊患者月報綴（俘虜）』を収めた。いずれも奉天俘虜収容所医務室が作成した資料で、諸検査の実施状況や捕虜が罹患した病気の種類などが詳しく記載されている。

第二部「奉天俘虜収容所の『戦後』——東京裁判における追及と弁護」では、極東国際軍事裁判（東京裁判）に提出された、奉天俘虜収容所に関する資料のなから、重要と思われる資料を収録した。これらは、①検察側が日本軍の捕虜虐待を追及するために提出した証拠書類と、②弁護側が捕虜虐待の責任を極力軽減しようとして提出した証拠の二つのタイプの資料群から成る。具体的には、収容されていた捕虜の宣誓供述書や、日本軍の捕虜政策について述べた、日本軍関係者の宣誓供述書などである。

本書収録資料が投げかける問いや示唆は実に多い。例えば軍医の記録からは、「人類が幸福追求すること、戦争を遂行・助長することの境界は、どこにあるのか」といった重大論点も浮かび上がる。研究、教育、社会運動などで本書が活用されるなかで、これらの資料はさまざまな問いを投げかけるはずである。



総括

- 一、顔貌憔悴シ老人様相ヲ呈スルモノ多シ
二、米英人ニ於テハ健康者アリテモ皮膚粗糙ナルモノアリテ
三、諸筋並ニ皮下脂肪組織ノ消耗高度ナルモノハ眼窩、肋間腔
四、意識ハ明瞭シテ死ニ前日迄應答アリテ突如トシテ鬼籍
五、睡眠不良ノ原因トナルモノハ便意抑尿並ニ腹痛、下肢知覚
六、知覚過敏ハ殆ント足部ニ限リ趾頭、足趾並ニ足背前部ニ

特色

- 多数の連合国捕虜が収容された奉天俘虜収容所に関して、1943年から1945年に作成された一次資料や、同収容所に関して1947年に提出された東京裁判資料など、全25点を集成！
●1943年2月から行われた「防疫」作業の報告には、死因表や各種診断記録などが掲載。捕虜の具体的な健康状態が明らかに！
●東京裁判に提出された、捕虜であった者の証言からは、報告書や弁護側の主張からはうかがい知ることのできない、収容所での実態が浮き彫りに！

資料1-6 桑島怒一、大氣壽郎「奉天俘虜収容所ニ於ケル戦争栄養失調症患者ノ臨床症状ニ就テ」24、42頁
731部隊と協力しながら、「戦争栄養失調症」について観察・研究した収容所医官がまとめた記録。体温や体格、便の状況などが事細かに記されている。総括からは捕虜となった者の劣悪な健康状態がうかがえる。

収録内容一覧

第一部 奉天俘虜収容所の諸相

- 資料1 「奉天俘虜収容所臨時防疫班作業報告」 ●一九四三年二月
資料2 病室入浴規定
資料3 俘虜死亡者病名別区分表
資料4 病名別員数表 ●（一九四三年？）四月一七日
資料5 無題（軍医によるメモ）
資料6 俘虜身体検査並ニ体力検査成績表 ●奉天俘虜収容所抄録 米英俘虜結核性疾患ニ就テ ●桑島怒一
資料7 マラリア調査表
資料8 無題（症状確認用の書類）
資料9 マントー氏反応
資料10 赤血球沈降速度（一時間値）
資料11 胸部X線所見分類表
資料12 無題（第二〇期陸軍軍医学校乙種学生名簿）
資料13 東京医学専門学校出身第二十期乙種学生名簿
資料14 「昭和二十年 報告綴」 ●奉天俘虜収容所医務室
資料15 「昭和二十年 部隊患者月報綴（俘虜）」 ●奉天俘虜収容所医務室
資料16 奉天俘虜収容所の「戦後」——東京裁判における追及と弁護

第二部 奉天俘虜収容所の「戦後」——東京裁判における追及と弁護

- 資料17 書類八〇七二A（モリス・リットマン伍長による宣誓供述書）
資料18 ●モリス・リットマン
無題（ヘルマン・E・フェイアル伍長による宣誓供述書） ●ヘルマン・E・フェイアル
資料19 無題（ジェームス・アレキサンダー・ギルバート一等兵による宣誓供述書） ●ジェームス・アレキサンダー・ギルバート
資料20 無題（ヘルマン・ホール伍長による宣誓供述書） ●ヘルマン・ホール
資料21 無題（ベスタロッチ（赤十字国際委員会駐日代表）による奉天俘虜収容所視察報告） ●ベスタロッチ
資料22 宣誓供述書 ●小田島董 ●一九四七年八月二二日
資料23 関総作命内第九八号 関東軍命令 ●梅津美治郎 ●一九四三年二月一日
資料24 奉天俘虜収容所月報二月月号報ヨリ抜粋 臨時防疫班作業状況報告 ●一九四三年二月二日
資料25 奉天俘虜収容所主要食糧給与実施概況表

九〇五三六三八。私ハ一九四二年五月六日ノ全面的降伏ノ際「コレヒドール」デ日本軍歩兵ニ捕ハレタ。私ハ滿洲ニ送レテ行カレ奉天近傍ノ奉天俘虜収容所ニ、一九四二年十一月十一日カラ一九四四年七月迄監禁サレタ。
私カ其處ニ居ル間コノ収容所テハ俘虜ハ適當ナ食糧モ食物モ宿舎モ與ヘラレナカッタ。
食糧、白米ノ不足並ニ冬季温度カ華民ノ零下四〇度迄下ツタノニ膠ヲ俵ツ爲ノ燃料カ不足ノ爲、二百人以上ノ俘虜カ死亡シタ。収容所ニハ正ニ大キナ石灰ノ山ガアツタニモ拘ハラズ、我々ハソレヲ燃ヤスコトヲ許サレナカッタ。耳ヤ鼻ヤ足ニ凍傷ヲ起ス事等ハ俘虜ニトツテ普通ノコトデアツタ。俘虜ハ帆布材料ノ紐ナモノデ出来タ制服ヲ配給サレタガ是ハ係温ニ十分ナアツタ。俘虜ハ屋外ヲ風雨ニ曝サレテ建設工事ニ働クコトヲ強ヒラレタ。食糧ガ一杯入ツテヘル倉庫カ一ツアリ日本人ハ自分進テ十分ナ食料ヲトリ午ラ俘虜ニ對シテハ十分ナ食糧ヲ配給シヨウトハンナカッタ。私自身モ同期間ニ、三〇對度体温カ減ツタ。食物、燃料及ビ治療品ノ請求ハ總テ日不人ニヨリ拒否セラレタ。

Table with columns for names and numbers, likely a list of prisoners or medical records. Includes names like 桑島怒一, 大氣壽郎, etc.

臨時防疫班作業状況報告 昭和二年五月十日
一、作業、状況
關總作命内第九八號ニ基キ編成セラレ關東軍防疫給水部臨時防疫班二月十日奉天ニ到着直ニ作業場ヲ奉天俘虜収容所内ニ開設シテ五月ヨリ作業ヲ開始セリ
作業ハ所長以下、努カト奉天陸軍病院ノ積極的援助ニ依リ圓滑ニ進歩シ十九日以下、應酬離者、腸管系病、尿體検査ヲ終了シ引續キ下刑者ノ重傷ヲ拒向シ俘虜食料ノ病採體検査ヲ實施セリ
二、患者、状況
下刑者ハ俘虜總數三、五名中二四七名十九日現在使回致三回以上ノ者ニテ所附軍醫ニ依リ下刑患者トシテ隔離病舎ニ収容セラレタル者二四名十九日現在下刑患者九名ナリ
其他ノ下刑者二三名ハ自覺症狀輕キヲ以テ健康者トシ居ラセラルル状況ナリ

資料1-3 「臨時防疫班作業状況報告」（1943年2月21日）10頁
関東軍の命によって関東軍防疫給水部、つまり731部隊が派遣されたという経緯が記される。捕虜総数1305人中、247人が下痢の症状を呈していたという。

資料18 ヘルマン・E・フェイアル「無題（ヘルマン・E・フェイアル伍長による宣誓供述書）」384頁
奉天俘虜収容所に収容されていた元捕虜による、東京裁判に1947年に提出された証言。収容された経緯や、華氏-40度に達したという収容所での境遇がまざまざと伝わってくる。